

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
J204	子ども生活学概論	2年	講義	2	牧野カツコ
<b>授業概要</b> 現代の子育て環境の多様化、複雑化によって、子どもの生活に様々な困難が生じている。前半は、胎児期から始まる人間の子どもの発達の特徴を知り、子どもが育つ家庭、地域社会の役割を考える。後半は、子どもをとりまく生活環境を実際に調査したりしながら、現代の子育ての環境の問題点に気付き、子どもや親の視点から見た望ましいあり方について意見を述べ合い、子育て支援についての理解を深める。それにより、各自の立場で現代の子どもの生活を支えるために必要な知識の学習と課題への対応策を考える力を身につけることを目指す。					
<b>到達目標(学習の成果)</b> 子どもの成長と発達の概要を知り、人間の発達における胎児期から乳幼児期の大切さを理解する (DP2)。 父親・母親、家族、子どもの育つ環境としての地域などについて、現状を知り、課題について考察する (DP2)。 現代の日本の子どもを取りまく衣食住などの生活環境の実態を調べ、子どもの発達の観点から問題点、課題を発見し、どのようなあり方がよいかについて考察することができる (DP3)。貧困や虐待など困難な環境にある子どもや家族の現状や問題について知り子どもの権利を守るための社会的な仕組みと課題を理解することができる (DP4)。					
<b>授業計画</b>					
回	表題	学修内容			
1	「子ども」とは何か、を考える	子どもという可能性の大きな存在の本質と育てられることの意義を考える。子どもの名前を通して、子どもの人権を確認する			
2	人間の胎児期の発達	胎児期の子どもの発達と父親母親の心理について理解する。胎児期のいのちを巡る現状と倫理的な課題について学び、意見交換する。			
3	乳児期の発達	乳児期の子どもの発達について理解する。赤ちゃんは環境をどう見ているのか、自分と他者をどう認識していくのか、その面白さを学習する。			
4	幼児期の発達	幼児期の子どもの発達について理解する。子どもの身体・認知・社会性の発達をしり、生涯にわたる人間の発達における乳幼児期の大切さを理解する。			
5	子育てと親の役割 (1)	家族の中で子育てを担ってきた母親の役割を理解する。日本の性別役割分業の実態と意識、母親一人に責任が集中する日本の子育ての特徴、問題点を知る。			
6	子育てと親の役割 (2)	日本の家族の歴史と父親の役割について理解する。父親が子育てに参加できなくなった戦後の家族の特徴を知る。子どもの発達の観点から、父親の育児参加の意義を知り、最近の育メン現象についても学ぶ。			
7	家族関係と子ども	きょうだい、祖父母、いとこなどのかかわりと子どもの発達への影響を考える。家族構成や出生順位の影響も考察する。			
8	生活環境と子どもの育ち	現代の子どもを取りまく衣食住などの生活環境の実態を子どもの発達の観点から検討する。食生活の実態と課題、衣生活、住生活の実態を取り上げ、適切なあり方、課題を検討する。「子ども生活レポート」の課題の決定と進め方、について。			
9	地域社会と子どもの育ち	子どもの育つ環境としての地域の自然環境、自然の中での遊びの意義を知り、合わせて地域の人々との関係について考える。			
10	ダイバーシティと子育て	現代の子どもや家族の多様性について学び、現代の子どもたちの置かれている課題を想像し、意見交換を行う。			
11	世界の子どもと子育て	出産育児休業制度、父親の育児参加の国際比較など、スウェーデン、韓国などの家族についてのVTRを視聴しながら、日本の課題を知る。			
12	子どもと親を支援する	児童虐待の実態、児童虐待の防止と支援のしくみ。発達の障害とその支援。子どもの貧困の実態と支援について理解する			
13	これからの子どもの生活と課題 (乳幼児期)	自分自身の問題関心に基づいてこれからの子どもの生活と子育てに関するテーマについて調べたことを発表し合う。			
14	これからの子どもの生活と課題 (学童期・青年期)	子どもの生活課題について調べたことを発表しあい、これからの子どもと自分自身の将来について、課題をまとめる			
15	子どもの権利を守る社会の仕組み	児童憲章、児童の権利条約、児童福祉法など子どもの健全な成長を育むための法律、規則を知り、市民の役割を考える。			

準備学修(授業外の自己学修)

自身の子も時代を振り返る。

子どもに関連する報道に興味を持ち、授業で学んだ社会状況の視点から分析する。

子どもの生活と衣、食、住、家族関係、生活環境等について自由なテーマで調べ、「子ども生活レポート」を作成し、発表を全員が行う。そのため、自分自身の身の回りの子どもや地域の子も達、父親、母親たちに日頃から関心を持ち、観察したり、情報を集めたりすることを心がけて欲しい。

成績評価の方法・基準(%表記)

- ① 出席回数:評価に含まない。単位認定には全講義回数の3分の2以上の出席が必要。
- ② 毎回の授業でのワークシートの記入と提出(20%)、
- ③ 授業中の討論、話し合いへの参加(20%)
- ④ 『子ども生活レポート』の作成と発表(30%)、
- ⑤ 期末レポート(40%)、期末レポートでは、授業で配布される資料、返却されたワークシートがきちんとファイルされて授業の記録ができているかどうか評価される。

観点	S	A	B	C
人間の発達における胎児期から乳幼児期の大切さを理解する(DP2)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
子どもの育つ環境としての家族・地域などについて、現状を知り、課題を考察できる。(DP2)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
子どもを取りまく衣食住などの生活環境の実態を調べ、どのようなあり方が良いかを提案できる(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
子どもの権利を守るための社会的な仕組みと課題を理解することができる。(DP4)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

教科書

指定しない。必要な資料は、授業中にプリントで配布する。

参考書等

牧野カツコ編著『人間の発達と保育』東京書籍、

牧野カツコ他編著『国際比較にみる：世界の家族と子育て』ミネルヴァ書房、

トッド・パール作 つだゆうこ訳 『ええやんそのまま』エルくらぶ

池田香代子、ダグラス・スミス訳『世界がもし100人の村だったら』マガジンハウス

池田香代子+マガジンハウス『世界がもし100人の村だったら4 子ども編』マガジンハウス

履修上の注意・学修支援

この授業はグループでの意見交換やワークを重視しているため、主体的な参加を求める。

「子ども生活レポート」の作成と授業での発表、レポートの提出は単位取得の条件である。

わからないことや疑問に思ったことは、リアクションペーパーを活用するか、教員に直接質問する。配慮が必要な場合は事前に相談してください。

教員への個別の質問・相談がある場合は、原則、事前にアポイントをとること(方法は授業内で提示する)。